

国際科目

アカデミックリテラシー

前期・選択・2単位

Academic Literacy

担当教員 長野真紀、佐藤優、森岡希世子、高台泳

対面・遠隔の別

対面

到達目標（目的含む）

アート・デザイン領域の修士研究（論文・作品）に必要なアカデミックリテラシーの基礎を学び、論文執筆や口頭発表に必要な能力の向上を図る。

授業の概要

学術研究では、着想、先行研究調査、理論的考察、調査・実験・検証、論文執筆、口頭発表を行う能力が必要となる。本授業では、論文の書き方（2～4回）と各専門分野の基礎的な技法や作法（5～13回）を講義と演習を交えながら進める。

各自の研究テーマに沿った計画書の書き方とプレゼンテーションの手法を学び、発表と質疑応答の演習（14～15回）を通して、論文・作品制作に必要な創造力と発想力を言語化する能力を身につける。

授業計画

- 1：関連学会・協会等と論文や作品の発表方法について【全員】
- 2：研究や作品の意義を伝える論文の書き方【佐藤】
- 3：学会論文の書き方【佐藤】
- 4：修了研究のまとめ方【佐藤】
- 5：プレゼンテーション資料の作り方①：構成【高】
- 6：プレゼンテーション資料の作り方②：デザイン【高】
- 7：プレゼンテーション資料の実例分析【高】
- 8：研究の有用性と新規性【長野】
- 9：建築系フィールドワークの手法と史料の扱い方①【長野】
- 10：建築系フィールドワークの手法と史料の扱い方②【長野】
- 11：現代クラフト研究の特徴と発表手法【森岡】
- 12：現代クラフト研究の実例＋グループディスカッション①【森岡】
- 13：現代クラフト研究の実例＋グループディスカッション②【森岡】
- 14：研究発表＋質疑応答①【全員】
- 15：研究発表＋質疑応答②【全員】

評価方法

到達目標の達成度およびディスカッション、発表の内容を総合的に評価する

その他

木曜2限を開講日に設定するが、変則的に木曜3限、木曜5限にも開講し、最終の研究発表会は月曜日2・3限に開講する。

イングリッシュプレゼンテーションⅠ

後期・選択必修・2単位

English Presentation I (Intermediate)

担当教員 ラッタ政美、趙英玉、アラル・ケンザ宝

対面・遠隔の別

遠隔、状況により対面のハイブリッド型。

遠隔の場合の主なツール

Teams

到達目標（目的含む）

アカデミックプレゼンテーションの基本スキルを身につけ、英語による論理的なプレゼンテーションができる力を獲得する。

授業の概要

英語によるプレゼンの指導を通じて、アカデミックプレゼンテーションの構成、プレゼン原稿のメッセージ性、伝わりやすいPower Point、口頭プレゼン技術などグローバルコミュニケーションの基礎スキルを身につける。

授業計画

- 1:オリエンテーション:アカデミックプレゼンテーション構成について/自己紹介文を英語で書く。
- 2:発表原稿の作成:本論のまとめ方について学び、原稿(日本語)を書く。/英文作成の基本を学ぶ。
- 3:発表原稿の作成:結果の考察の違いについて学び、原稿(日本語)を書く。/英語のpunctuationを学ぶ。(1)
- 4:発表原稿の作成:研究背景と目的について学び、原稿(日本語)を書く。/英語のpunctuationを学ぶ。(2)
- 5:発表原稿のフィードバック:原稿(日本語)を完成する。
- 6:英語パワーポイントの作成:発表ストーリー構成
- 7:英語パワーポイントの作成:見せるパワーポイントの制作
- 8:英語パワーポイントの作成:著作権問題、出典・引用・参考文献の表示
- 9:英語パワーポイントのフィードバック:英語パワポの添削(個別指導)/英文原稿を書き始める。
- 10:英語の発表原稿のチェック(個別指導)(1)/キーワードの日英対照
- 11:英語の発表原稿のチェック(個別指導)(2)/プレゼン時の注意
- 12:英語の発表原稿の最終チェック(個別指導)(3)/データ提出物の最終チェック
- 13:英語によるプレゼンテーション(リハーサル)
- 14:英語によるプレゼンテーション
- 15:今後の研究発表に向けて:まとめ、振り返り

授業時間外学習

自分の専門分野の英語の文献を手取る習慣をつけておくこと。またGlobal Cafeなどでネイティブによる英文原稿のproofread、発音チェックをしておくことが望ましい。

評価方法

日本語原稿(構成も含む):20%、英文原稿:20%、パワーポイント:20%、口頭発表(4-5分):40%(提出期限が守られているかという点も評価の内に含む)

課題・試験に対するフィードバックの方法

プレゼン作成のプロセスにおいて個別のフィードバック、さらに最終回に行う口頭発表の際に全体講評を行う。

使用テキスト

随時指定、配布する。

参考テキスト・URL

101 Design Methods: A Structured Approach for Driving Innovation in Your Organization Vijay Kumar, 2012/10/9

増補改訂版 初めての英語論文引ける・使える パターン表現&文例集、和田 朋子著、すばる舎

最新 英語論文によく使う表現 基本編、崎村 耕二著、創元社

最新 英語論文によく使う表現 発展編、崎村 耕二著、創元社

各自準備物

英語のプレゼンテーションの制作に必要な素材は、指示に従って各自で準備する。制作を行う授業には、各自のパソコン等を持参すること。

その他

様々な機会を生かして、英語を用いるシンポジウムや特別講義等への参加を履修者に義務付ける場合がある。授業内容とスケジュールは、演習課題の進展状況をみながら必要に応じて適宜調整する場合があるので、連絡や掲示に十分注意すること。

イングリッシュプレゼンテーションⅡ

前期・選択必修・2単位

English Presentation II (Advanced)

担当教員 ラダ政美、趙英玉

対面・遠隔の別

通常遠隔、状況に応じて対面のハイブリッド型。

遠隔の場合の主なツール

Teams

到達目標（目的含む）

芸術工学の論理性に注目したアカデミックプレゼンテーションのスキルを身につけ、科学的メソッドを重視する国際的なコミュニケーションの場で、英語による論理的なディスカッションができる力を獲得する。

授業の概要

英語のキーワードを用いて世界の研究情報を獲得し、芸術工学のメソッドやテクニックを活用したプレゼンテーションの論理性を学ぶ。芸術美学やデザインの提案について、英語で説得力のあるディスカッションを行う実践力を身につける。

授業計画

- 1: オリエンテーション: アカデミックプレゼンテーションにおける論理性について / 自分の研究概要を英語で要約する。
- 2: 論理性を重視したプレゼンを学ぶ: 定性研究について / キーワードを日英で抽出
- 3: 論理性を重視したプレゼンを学ぶ: 定量研究について / ディスカッション
- 4: 論理性を重視したプレゼンを学ぶ: ネット検索国際学会の論文検索・リスト作成
- 5: 論理性を重視したプレゼンを学ぶ: プレゼンテーション (検索論文について)
- 6: 論理性を重視したプレゼンを学ぶ: ラウンドディスカッション (研究メソッドについて) / 英語プレゼンテーションの原稿・パワポの制作
- 7: グローバルコミュニケーションの方式・作法について / プレゼン時の注意
- 8: 英文学術誌・国際学会誌について: 図書館の英文誌記事の検索 / 英文要約
- 9: 英語プレゼンテーションの原稿・パワポの提出
- 10: 英語プレゼンテーションの原稿・パワポのフィードバック: 質疑応答に備える
- 11: 英語プレゼンテーションの原稿・パワポの個別指導
- 12: 英語プレゼンテーションの個別指導
- 13: 英語プレゼンテーション・質疑応答のリハーサル
- 14: 口頭発表
- 15: 今後の研究発表に向けて: まとめ・振り返り

授業時間外学習

自分の専門分野の英語の文献を手取る習慣をつけておくこと。また Global Cafe などネイティブによる英文原稿の proofread や発音チェックをしておくのが望ましい。

評価方法

英文発表原稿: 20%。英文パワーポイント20%、その他課題提出物: 20%、口頭発表 (10-15分): 40% (提出期限が守られているかという点も評価の内に含む)

課題・試験に対するフィードバックの方法

プレゼン作成のプロセスにおいて個別のフィードバック、さらに最終回に行う口頭発表の際に全体講評を行う。

使用テキスト

随時指定・配布する。

参考テキスト・URL

101 Design Methods: A Structured Approach for Driving Innovation in Your Organization Vijay Kumar, 2012/10/ 9

増補改訂版 はじめての英語論文 引ける・使える パターン表現 & 文例集, 和田 朋子著, すばる舎

最新 英語論文によく使う表現 基本編, 崎村 耕二著, 創元社

最新 英語論文によく使う表現 発展編, 崎村 耕二著, 創元社

各自準備物

英語でのプレゼンテーションの制作に必要な素材は、指示に従って各自で準備する。制作を行う授業には、各自のパソコン等を持参すること。

その他

様々な実践の機会を生かして、英語を用いるシンポジウムやワークショップ、講義等を本授業に組み入れる場合がある。授業内容とスケジュールは、様々な実践の機会を活用するため必要に応じて適宜調整するので、連絡や掲示に注意すること。

ジャパニーズコミュニケーションⅠ

前期・選択・2単位

Japanese Communication I (Intermediate)

担当教員 陳秀茵、高倉瑞穂

対面・遠隔の別

社会情勢や進行状況に応じて遠隔 (Teams 等) と対面を併用する。

遠隔の場合の主なツール

遠隔授業の場合は、主に同時双方向型授業 (リアルタイム型授業) と課題配信学習 (オンデマンド型授業) を組み合わせたメディア授業を基本として実施する。授業資料の配布及び講義は、神戸芸術工科大学のポータルサイト・Teams・Youtube・Google と、PDF ファイル・Word ファイル・PowerPoint ファイルを利用して行う。質疑応答は Zoom、神戸芸術工科大学のポータルサイト・Teams、または Microsoft Forms を行うが、その際は実名で投稿してください。また、Zoom を使う際は、リアルタイムでの意見交換の機会を設ける。

履修制限等

「ジャパニーズコミュニケーションⅠ」は、留学生のみ履修できる。ただし、協定校及びクムルス加盟校対象留学生国外受験入学試験の入学者は、2単位を選択必修とする。

到達目標（目的含む）

- ・ 様々な分野の幅広い語彙を身につけるようになる。
- ・ ニュースや大学講義の構造を理解し、話の内容の大意をつかめるようになる。
- ・ 既存のメディアから様々な情報を受け取り、それを周りの人と共有するという、人が日常的に行う言語活動を外国語である日本語でも支障なく行えるようになる。
- ・ 問題を発見し、批判的に物事を捉え、それを聞き手にわかりやすく伝えるようになる。
- ・ 以上の基本となる日本語能力試験 N1 が合格できる。

授業の概要

留学生が異なる言語、文化、価値を乗り越え、関係構築を行うための日本語コミュニケーション能力を養うために、主に次の3つの力の育成を目指し、本講義の内容を構成する。①多様な文章や映像による「話し言葉・書き言葉」の習得。②表現するための文法・語彙知識の獲得。③高度な考察の基盤となる文化社会への理解。

この授業では、反転授業を取り入れたアクティブラーニング型の講義形式を採用する。毎回、受講生は授業で提示された課題に取り組み、授業では詳しい解説と質疑応答、意見交換の場とし、グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーション等を行う。

授業計画

- 1: オリエンテーション (日本語レベル調査テスト、Can-do 調査、テキストの紹介、授業の進め方等)
 - 2: 日本人と日本語① (課題: 本文語彙文法の意味確認・言語知識に関する設問、授業: 解答と解説)
 - 3: 日本人と日本語② (課題: 本文読解と内容理解、授業: 解答と解説)
 - 4: 日本人と日本語③ (課題: コラム読解、授業: 発展活動)
 - 5: 日本人と日本語④ (課題: 本文語彙文法の復習、授業: まとめ+クイズ)
 - 6: 日本人と地震① (課題: 本文語彙文法の意味確認・言語知識に関する設問、授業: 解答と解説)
 - 7: 日本人と地震② (課題: 本文読解と内容理解、授業: 解答と解説)
 - 8: 日本人と地震③ (課題: コラム読解、授業: 発展活動)
 - 9: 第2回~第7回の総合復習、中間テスト+講評
 - 10: 日本人とビジネス① (課題: 本文語彙文法の意味確認・言語知識に関する設問、授業: 解答と解説)
 - 11: 日本人とビジネス② (課題: 本文読解と内容理解、授業: 解答と解説)
 - 12: 日本人とビジネス③ (課題: コラム読解①、授業: 発展活動)
 - 13: 日本人とビジネス④ (課題: コラム読解②、授業: 発展活動)
 - 14: 日本人とビジネス⑤ (課題: 本文語彙文法の復習、授業: まとめ+クイズ)
 - 15: まとめと復習+質疑応答
- *以上は予定です。学生の皆さんの興味関心や必要に応じて変更されます。

授業時間外学習

- ・ 事前学習では、講義のスケジュールに沿って、授業で取り上げる内容について、用語を調べたり、自分の考えをまとめたりし、予習を十分に行うこと。
- ・ 事後学習では、授業で扱ったプリント等を十分に復習し、日本語能力の向上に努めること。
- ・ また、授業で紹介された参考資料も利用して知識を広げてください。

評価方法

平常点と課題 (40%)、中間試験 (20%)、期末試験 (40%) を総合して評価します。※中間テストは授業で扱ったトピックへの理解度を測るクイズを実施し、期末試験は授業で扱ったトピックについての記述試験とします。

課題・試験に対するフィードバックの方法

- ・ 提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。
- ・ 次回の授業で、課題の中の特徴的な見解やよくできた学生の答案を紹介する。

使用テキスト

「上級日本語教材 日本がわかる、日本語がわかる—ベストセラーの書評エッセイ24—」田中祐輔 (編著) 川端祐一郎・肖輝・張珺 (著)、凡人社、2019年

参考テキスト・URL

予習復習用のワークシートを無料ダウンロードするサイト
<http://www.bonjinsha.com/wp/bookreview>

その他

授業を休む/休んだ場合はできるだけ早く連絡すること (電話・メール可)

ジャパニーズコミュニケーションⅡ

後期・選択・2単位

Japanese Communication II (Advanced)

担当教員 陳秀茵

対面・遠隔の別

社会情勢や進行状況に応じて遠隔 (Teams 等) と対面を併用する。

遠隔の場合の主なツール

遠隔授業の場合は、同時双方向型授業 (同期型授業) と課題配信学習オンデマンド型授業を組み合わせたメディア授業を基本として実施する。授業資料の配布及び講義は、神戸芸術工科大学ポータルサイト・ZOOM・YouTube・Google と、PDF ファイル・Word ファイル・PowerPoint ファイルを利用して行う。質疑応答は神戸芸術工科大学ポータルサイトまたは Microsoft Forms で行うが、その際は実名で投稿してください。また、ZOOM を使う際は、リアルタイムでの意見交換の機会を設ける。

履修制限等

「ジャパニーズコミュニケーションⅡ」は、留学生のみ履修できる科目である。ただし、協定校及びクムルス加盟校対象留学生国外受験入学試験の入学者は、2単位を選択必修とする。

到達目標 (目的含む)

- ・様々な分野の幅広い語彙を身につけるようになる。
- ・ニュースや大学講義の構造を理解し、話の内容の大意をつかめるようになる。
- ・既存のメディアから様々な情報を受け取り、それを周りの人と共有するという、人が日常的に行う言語活動を外国語である日本語でも支障なく行えるようになる。
- ・問題を発見し、批判的に物事を捉え、それを聞き手にわかりやすく伝えるようになる。
- ・以上の基本となる日本語能力試験 N1 が合格できる。

授業の概要

留学生が異なる言語、文化、価値を乗り越え、関係構築を行うための日本語コミュニケーション能力を養うために、主に次の3つの力の育成を目指し、本講義の内容を構成する。①多様な文章や映像による「話し言葉・書き言葉」の習得。②表現するための文法・語彙知識の獲得。③高度な考察の基盤となる文化社会への理解。

この授業では、反転授業を取り入れたアクティブラーニング型の講義形式を採用する。毎週、受講生は授業で提示された課題に取り組み、授業では詳しい解説と質疑応答、意見交換の場とし、グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーション等を行う。

授業計画

- 1: 日本人と文学① (課題: 本文語彙文法の意味確認・言語知識に関する設問、授業: 解答と解説)
- 2: 日本人と文学② (課題: 本文読解と内容理解、授業: 解答と解説)
- 3: 日本人と文学③ (課題: コラム読解①、授業: 発展活動)
- 4: 日本人と文学④ (課題: 本文語彙文法の復習、授業: まとめクイズ)
- 5: 日本人と哲学① (課題: 本文語彙文法の意味確認・言語知識に関する設問、授業: 解答と解説)
- 6: 日本人と哲学② (課題: 本文読解と内容理解、授業: 解答と解説)
- 7: 日本人と哲学③ (課題: コラム読解、授業: 発展活動)
- 8: 第2回~第7回の総合復習、中間テスト+講評
- 9: 日本人と生活① (課題: 本文語彙文法の意味確認・言語知識に関する設問、授業: 解答と解説)
- 10: 日本人と生活② (課題: 本文読解と内容理解、授業: 解答と解説)
- 11: 日本人と生活③ (課題: コラム読解①、授業: 発展活動)
- 12: 日本人と読書① (課題: 本文語彙文法の意味確認・言語知識に関する設問、授業: 解答と解説)
- 13: 日本人と読書② (課題: 本文読解と内容理解、授業: 解答と解説)
- 14: 日本人と読書③ (課題: コラム読解、授業: 発展活動)
- 15: まとめと復習+質疑応答

* 以上は予定です。学生の皆さんの興味関心や必要に応じて変更されます。

授業時間外学習

- ・事前学習では、講義のスケジュールに沿って、授業で取り上げる内容について、用語を調べたり、自分の考えをまとめたりし、予習を十分に行うこと。
- ・事後学習では、授業で扱ったプリント等を十分に復習し、日本語能力の向上に努めること。
- ・また、授業で紹介された参考資料も利用して知識を広げてください。

評価方法

平常点と課題 (40%)、中間試験 (20%)、期末試験 (40%) を総合して評価します。

※中間テストは授業で扱ったトピックへの理解度を測るクイズを実施し、期末試験は授業で扱ったトピックについての記述試験とします。

課題・試験に対するフィードバックの方法

- ・提出された課題を採点し、コメントをつけて返却する。
- ・次の授業で、課題の中の特徴的な見解やよくできた学生の答案を紹介する。

使用テキスト

『上級日本語教材 日本がわかる、日本語がわかる—ベストセラーの書評エッセイ24—』田中祐輔 (編著) 川端祐一郎・肖輝・張珩 (著)、凡人社、2019年

参考テキスト・URL

予習復習用のワークシートを無料ダウンロードするサイト

<http://www.bonjinsha.com/wp/bookreview>

その他

授業を休む/休んだ場合はできるだけ早く連絡すること (メール)